

古代の世界へ Let's go!!



太田市立太田中学校 1年
塚本 陸仁

1 きっかけ

以前、姉が「甲（よろい）を着た古墳人」について調べたことがありました。その時のレポートを読んで、火山噴火で埋没した地域の遺跡をもっと詳しく知りたいと思うようになりました。

「甲を着た古墳人」は、金井東裏遺跡で発掘されました。6世紀に起きた榛名山の噴火でのみこまれたこの地域には、貴重な遺跡が数多く残っています。直前まで人々が暮らしていた集落がそのままの姿で見つかることが多く、当時の生活を知る貴重な手がかりになっています。そのときのレポートを読んで私は以下のことが気になったので今回自分で調べてみたいと思いました。

気になったこと

- ・ムラのリーダーはムラ人を大噴火から避難させた後、逃げたのか。
- ・甲を着た古墳人の近くで出土された甲は誰のものか。
- ・渡来人が連れてきた馬を飼育・生産していたのは群馬だけか。
- ・鉄製品が出土されているが、鉄製品は朝鮮半島から運んだものか、ムラで作ったものなのか。また材料はムラでも手に入ったのか。
- ・首飾りは、ムラ人がみんな付けていたのか、身分が高い人が付けていたのか。
- ・なぜ「甲を着た古墳人」をはじめ古墳人の骨が残っているのか。

2 調査

金井遺跡群は榛名山の東の麓（ふもと）にあります。「甲を着た古墳人」の発掘で話題になった金井東裏（かないひがしうら）遺跡と、その南側にある金井下新田（かないしもしんでん）遺跡の総称です。

金井遺跡群は、道路建設工事に先立って発掘調査によって発見されました。2つの遺跡は6世紀（1500年前）に起きた榛名山の噴火に伴う火砕流によって埋没しており、数々の貴重な発掘成果をあげています。

私はまず、金井遺跡群について知るために図書館やインターネットで調べることにしました。調べた後に「群馬県立歴史博物館（高崎市）」と「群馬県埋蔵文化センター発掘情報館（渋川市）」（以下発掘情報館）に行きました。調査したところ私は「奇跡の発見!」を知ることになりました。





発掘情報館



歴史博物館

古墳人が発掘される！！

- ・甲を着た古墳人（金井東裏遺跡 1 号人骨）
- ・乳児の古墳人（金井東裏遺跡 2 号人骨）
- ・首飾りの古墳人（金井東裏遺跡 3 号人骨）
- ・幼児の古墳人（金井東裏遺跡 4 号人骨）
- ・10代の古墳人（金井下新田遺跡 1 号人骨）
- ・勾玉の古墳人（金井下新田遺跡 2 号人骨）



復顔像

「甲を着た古墳人」「首飾りの古墳人」

★教科書ではこの時代に人間が本当にいたと習ったが、正直信じられませんでした。しかし、この古墳人の発見を知り驚きました。実際に、発掘情報館で「甲を着た古墳人」と「首飾りの古墳人」のレプリカを見たときは、この時代に本当に人間がいたんだ！と実感することができゾクゾクしました。そして、服装や持ち物、かざりものを見て、当時の様子が想像できて面白かったです。「10代の古墳人」と「勾玉の古墳人」は馬と発見されています。2人が馬と避難しようとしていたと考えられます。

そして一番驚いたのが、発見された古墳人の頭蓋骨から顔の復元ができたことです。歴史博物館で復顔を見ましたが、「甲を着た古墳人」は、海から渡ってきたことが分かるように、外国人のような顔で、首飾りの古墳人と顔の作りが違いました。

「甲を着た古墳人」は推定年齢40歳代と推測されています。古墳人の平均寿命を調べた所25歳未満でしたので、この時代にしては長生きなので、良い食べ物を食べ、良い暮らしをしていたと想像できます。

甲（よろい）・冑（かぶと）・武器の発見！！

- ・「甲を着た古墳人」の甲（1号甲）
- ・1号の西側から発見された甲（2号甲）
- ・衝角付冑（しょうかくづきかぶと）
- ・鉄鉾（てつほこ）・鉄鏃（てつぞく→鉄製のやじり）25本などの武器

★古墳人が着ていた「甲」は、小札（こざね）という鉄の板1800枚をつなぎ合わせたとても高価なものでした。2号甲（小札947枚）は巻いた状態で発見されました。内部に鹿角製

小札49枚がありました。それまで主流だった短甲（たんこう）ではなく最新式の甲でした。

古墳人の近くで発掘された鉄鉾・鉄鏃は、高価な飾りが付いていたので実用的な武器ではなく、権力の象徴だったと思います。それらはヤマト王権に認められ、親密な関係になった有力豪族のみが手に入れられない貴重品だったことを考えると、「甲を着た古墳人」は、ヤマト王権から認められた立派な首長、王だったと思います。参考文献の本では、「所有物より、将来この人が埋葬される予定だった大型古墳が見つかるかもしれない」と書いてありました。私もそういう考えもあると思いました。そして、そばで発見された甲や武器は、全て「甲を着た古墳人」の持ち物で、噴火時に大事なものをもって移動していたと思います。また甲の内側・外側からは、衣服の一部かもしれない麻・絹の繊維が見つかり当時の繊維の素材や織り方（平織り）が分かることに驚きました。

馬の出土と馬の足跡！！

- ・仔馬と出産可能なメス馬合わせて3頭が出土（金井下新田遺跡）
- ・噴火から避難する馬の足跡、馬蹄跡（ばていあと）が見つかる



2号馬の後ろ足

★この発見で、この地域で馬の飼育と生産が行われていることが分かりました。発見された馬は体高110～125cmの小形・中形馬と推定されています。今の木曽馬（長野木曽地域で飼育されている馬の一種）のような馬だったと考えられています。

群馬の古墳から出土する馬具は、全国一の出土を誇っています。豊富な馬具は、この地域が全国有数の馬産地だったことを物語っているそうです。群馬という県名は、「かつて馬を飼育する有名な産地だったことが由来になっている」と、県立歴史博物館の掲示物で見ました。このことから、馬と人がこの地で暮らしていたことが分かります。私が読んでいた日本の歴史まんが（講談社）で、群馬の王がヤマト王権の大王に馬をおさめる場面があります。

「群馬の馬はどれも美しく、力強い馬ばかり」と褒められています。やはり馬を生産して中央政府に献上する国内屈指の馬の生産地が、ここ群馬にあったと考えられます。

馬を飼育・生産できたのは2つの理由があると思います。まず1つ目は朝鮮半島の最新技術（馬の生産技術）を持った「甲を着た古墳人」のような渡来人が群馬に来たこと、そして2つ目は群馬が馬を育てやすい場所だったからだと思います。

建物跡、鍛冶工房、古墳、赤玉、祭祀遺構（さいしいこう）など発見！！

- ・鍛冶工房が2箇所発見（金井下新田遺跡）
- ・2基の古墳、赤玉、祭祀機構を発見（金井東裏遺跡）

★鍛冶工房が発見されたことから、鉄器を作っていたことが分かっています。鉄は当時貴重なもののなのに、この場所で武器や武具、工具や馬具などの鉄製品が出土されているので、この地域が進んでいたムラであったと思います。ベンガラ（古墳の石室や土器、埴輪などに塗られている赤色顔料）を丸めた赤玉も出土しています。様々な出土品から、食べ物や道具、祭事で使うものを自分たちで作って生活していることが想像できます。畑の土を分析したところ、陸稲（畑で栽培される稲）や麦が栽培された可能性があるそうです。

このムラは渡来系の技術をもっていたことが分かる遺構・遺物がたくさん出土しています。

古墳人、よみがえる！！

★歴史博物館の「古墳人、よみがえる」のコーナーで古墳人と話をしました。本当にムラに自分がタイムスリップをして古墳人と会話をしているようでワクワク・ドキドキしました。

発掘情報館を見学した後、疑問に思っていることなどを専門家の桜岡正信さんに色々と質問してみました。とても丁寧にやさしく教えていただきました！！

私

「甲を着た古墳人」は、このムラのリーダーだと思いますが、なぜ自分は逃げずに亡くなったのですか？

桜岡さん

溝の中に「甲を着た古墳人」がいるのが分かりますか？立派な小札（こざね）甲を着たまま、溝の中にうつぶせになって亡くなっていたんですね。ムラのリーダーと言っていました。ムラのリーダー、村長さんというレベルではなく、もっと上のレベルの王に近いような人だと思います。その方がこの場で亡くなっていました。

ここを見てください、白い点々があるのが分かりますか？



金井東裏遺跡ジオラマ（4区・9区）

私

足跡ですか？

桜岡さん

そうです、足跡ですね。あれはムラの人々が逃げている証拠なんです。6世紀初頭、西暦500年位に榛名山が大噴火したんです。最初に2回マグマ水蒸気爆発したんです（マグマが水と接触すると急激に大量の水蒸気が発生して爆発的な噴火現象が起こる）。1度目の爆発時に火山灰が1センチ位積まりました。その後2回目の水蒸気爆発が同じように起こりました。2回目の火山灰が積もった後に、この辺に住んでいた人々が動き出し避難したんです。ぬかるんだ道を裸足で歩いたんです。

私

火山灰が降っている間は避難しなかったのですか？

桜岡さん

2回目の水蒸気爆発の間、家の中で待っていました。一旦収まったので、これで逃げられる！と思って裸足で逃げたと思います。見てください、火山灰が積もった後、馬と人の足跡が残っています。これを見て分かるのですが、



古墳人の足跡

足跡から裸足で逃げたことが分かります。慌ててない、走っていない。比較的ゆっくり逃げています。走ったりすると、蹴り上げた跡が分かるのですが、この足跡は、しっかり踵（かかと）から前の方に付いています。

ムラの人々が逃げているのは確実です。その中で「甲を着た古墳人」が亡くなっている中で、ムラの奥の人がこの場所から避難するのを待っていて、その後で噴火の火砕流が襲って逃げ切れなかったのでしょうか。火砕流が1000度以上、時速100kmを超える速さで流れ下ってきました。火砕流を見たときに、逃げ切れずに、少しでも低い所でうつぶせになって耐えようとしたんですが耐えられずに亡くなりました。

近くで女性も亡くなっています。この人も避難して逃げる途中で、火砕流の被害にあっています。体を回転させるように倒れていたことが分かっています。火砕流を避けようと体を回転させ下の方に落ち込んで亡くなっています。なぜ回転しているか分かったかという、長い首飾りは普通前にぶら下がっているものですが、首の後ろのところにガラス玉などがあったからです。

私

首飾りは一般の人もおしゃれのために付けていたのですか？それとも「首飾りの古墳人」は身分の高い人なんですか？

桜岡さん

埴輪をみると、男性も女性も首飾りが付いています。埴輪から想像すると、一般的には全員が付けていると言われていますが、私は基本的には女性が付けていたんだと思います。祭りに関係する仕事をする人、巫女さんは、ブレスレット、アンクレット、耳飾り、何らかの装身具を付けてます。

金井下新田遺跡では子供が2人亡くなっているんですが、その1人が首飾りを付けています。「甲を着た古墳人」は立派な人ですが、位が高いのに首飾りは付けていません。

私

「甲を着た古墳人」の近くで発見された甲は誰のものですか？

桜岡さん

おそらく「甲を着た古墳人」の持ち物だと思います。自分は小札（こざね）1800枚をつないだ立派な甲を着ています。小札は鉄の板です。近くで発見された甲は900枚位の小札が巻いた状態で発見され、その中に鹿の角で作った（鹿角製小札）胸を飾るような甲の一部が発見されています。さらにすぐ近くに弓矢が25本束ねた状態で倒れていました。ゆぎ（矢を入れる道具）も置いてありました。そして少し離れているんですが、鉾（ほこ）、今で言うヤリがありました。これらのものは、偉い人しか持てたないもので、権威の象徴でもあります。「甲を着た古墳人」は人々を避難させながら、自分の重要な荷物を持っていたのではないかと。一人で持てる荷物ではないので、おそらくお付きの人がいたのではないのでしょうか。

私

馬の足跡が見つまっていることから、この地域で馬が生産されていることが分かっていますが、馬の生産は群馬だけだったんですか？

桜岡さん

もともと日本には馬がいなかったんです。朝鮮半島経由でおそらく導入されるんですが、大王がいた大阪周辺でまず育て生産していたと思います。大阪周辺で、馬を飼育していたような跡が遺跡で見つかっています。その後に伊那谷（長野）の辺り、そして群馬へと来たんだ

と思います。馬はどこでも生産できるわけではないんです。やっぱり適地があるんです。
「甲を着た古墳人」の調査で長野で育った可能性があるんで、その長野から馬を飼う人たちと一緒に群馬に来た可能性があります。群馬は馬を飼うために適した場所であることは間違いありません。

私

鉄製品が発掘されていますが、自分たちで作っていたのですか？また鉄や銅は日本でも取れていたのですか？

桜岡さん

5世紀は鍛冶屋がでる古いところです。馬を飼育するためには、馬具も必要です。ムラには鉄器や武具も必要です。それらは全て鉄製なんです。鉄鋼石から鉄を取り出す製鉄はできません。鉄製品は、素材（鉄錠、てっぺい、鉄の板）から鍛冶屋が叩いて製品を作っていました。朝鮮半島からもたらされた鉄錠は、ヤマト王権が抑えていて、それを地方に分配していました。技術者も地方に送ってくれています。鉄や鉄を扱う技術は、馬の生産と一緒に群馬に入ってきている可能性があります。5世紀は産業が色々大きく変わった時期です。各地の豪族はヤマト王権から、鉄錠などの貴重なものを分配してもらい、地方の部下のような関係を築いた。

鉄は取れるようになっていきます。一番古い鉄は、砂鉄を溶かす技術が出雲地方（島根県）で発達しています。砂鉄から鉄を取り出す製鉄が群馬で始まるのは、おそらく7世紀頃。古墳時代の終わり頃ですね。砂鉄を溶かした場所が見つっています。

私

なぜ古墳人の骨が分解されずに現代まで残っていたのですか？



「甲を着た古墳人」のレプリカ



「首飾りの古墳人」レプリカ

桜岡さん

この地層（右図）なんですけど、何層も地層が見えますよね。この粒の大きさが違う土の層が堆積することで、キャピラリーバリアという壁ができて、水の浸透がなく古墳人が守られていたと思います。

（・粒の細かい地層→水をよく吸い取る ・荒い地層→水を吸い取る力が弱い）

私

9区の古墳は誰の古墳ですか？



桜岡さん

「甲を着た古墳人」の時代より前の世代の古墳です。古墳には人骨はなかったんです。大きなものと小さなものが並んでますよね。大きな方は2人埋葬できます。こちらには剣と刀と弓矢があった。男の人ですね。こちらはガラス製の勾玉とガラス玉が出てきているので、おそらく女性。男女2人が埋葬された可能性があります。小さい方の古墳は出土品から、鉄の道具を作るリーダーのような人、または馬の仕事をしていたリーダーかもしれません。副葬品が生前の職業を示すなら、何らかの技術者のものかもしれません。

○ミニジオラマを作ってみよう！！

もっと詳しく金井遺跡群を知るために金井東裏遺跡のミニジオラマを、紙粘土で作ってみました。このミニジオラマを作ったことで、何がどの場所で発掘されたかよく分かりました。この地域だけで、古墳人、武具や武器、建物の跡、畑、祭祀遺構、2基の古墳、赤玉など様々なものが発掘されています。このことから古墳人の衣・食・住を想像することができて楽しかったです。



3 まとめ

- ・ムラのリーダーはムラ人を大噴火から避難させた後、逃げたのか？
→「甲を着た古墳人」はムラのリーダーではなくもっと身分の高い人であった。王のような存在。その人は、ムラ人を避難させている最中に災害にあった可能性がある。また噴火を鎮めるため山の神に儀式をしていたのかもしれない。
- ・「甲を着た古墳人」の近くで出土された甲は誰のものか？
→「甲を着た古墳人」の可能性はある。甲のほか、鉄鉾、鉄鏃などが見つまっている。
- ・渡来人が連れてきた馬を飼育・生産していたのは群馬だけか？
→朝鮮半島からまず大阪に導入され、長野、群馬と広がっていった可能性がある。
- ・鉄製品が出土されているが、鉄製品は朝鮮半島から運んだものか、ムラで作ったものなのか？また材料はムラでも手に入ったのか？
→鍛冶工房が発見されている。その当時、鉄そのものは作れないが、鉄鋳（鉄の板）を素材としてムラで鉄製品が加工されている。鉄鋳（右図）はヤマト王権から分配された。



- ・首飾りのおしゃれ品は、ムラ人がみんな付けていたのか、身分が高い人が付けていたのか？
→私は「首飾りの古墳人」が首飾りをしていたので、身分が高い人が首飾りを付けていたと思っていた。桜岡さんは、男性も持って付けている方もいると思うが基本的には女性が付けていたのではないかとおっしゃっていた。
- ・なぜ「甲を着た古墳人」をはじめ古墳人の骨が残っているのか？
→厚さ2メートル以上の火山噴出物で埋められていたため、キャピラリーバリアが働き、骨など遺物が水から守られた。

4 感想

私は東国文化副読本を読むまで東国文化を知りませんでした。この本を読んでその中心が群馬であることもすごいなと感心しました。また発掘された事実や状況から当時の暮らしを想像するのはとても楽しかったです。これから新たな分析技術も進めばまた新しい真実も明らかになることもあるだろうと思いました。そして骨がとてもきれいな状態で残っている奇跡に驚きました。1500年以上前の人々の骨を見て当時の生活や文化を想像することにロマンを感じました。噴火で埋もれた町として、イタリアのポンペイの遺跡は世界遺産になっています。群馬にも1500年前の歴史を知るにもってこいの場所があることを日本に限らず海外の人にも知ってもらいたいと思いました。これからも東国文化についてもっと詳しく知りたいと思いました。

桜岡さんは、私の知らない「古代の世界」に連れて行ってくれました。とても嬉しかったです。本研究に協力して下さった発掘情報館の桜岡さんに深くお礼申し上げます。

参考文献

- ・社会科 中学生の歴史 帝国書院
- ・「埋文群馬」No.64, 平成31年
- ・「埋文群馬」No.69, 令和6年
- ・群馬県「東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう」, 2021年
- ・群馬県埋蔵文化財調査事業団「古墳人、現る一金井裏東裏遺跡の奇跡一」, 上毛新聞社, 2019年
- ・笹澤泰史「鉄が語る群馬の古代史」みやま文庫, 令和3年
- ・能美彰英「馬を育てた古墳時代の村の謎」, 2019年
- ・「金井東裏遺跡 甲を着た古墳人だより」vol.1～vol.26, 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- ・若狭徹「東国から読み解く古墳時代」, 吉川弘文館, 2015年

表紙

- ・発掘情報館展示物より（榛名山噴火前の金井東裏ムラの風景）